

ハネヤスメ



Concept.

◇戦争と平和が織りなす戦跡地

◇緑に囲まれ、そこに生息し飛び交う鳥たち

—— 平和の思いが集った千羽鶴

—— 羽ばたく姿は勇ましくもどこか儂い

千羽鶴から折り鶴のカタチをイメージし、訪れた人がくつろぐ“羽根を休める”場所としてこの地に似つかわしい新たなランドマークとなる展望台を提案する。

【施設概要】

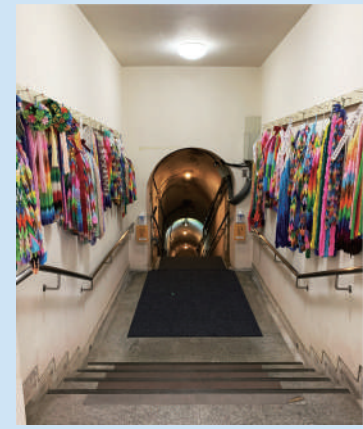
面積（屋根投影面積）：35.9 m²

最高高さ：3,500mm

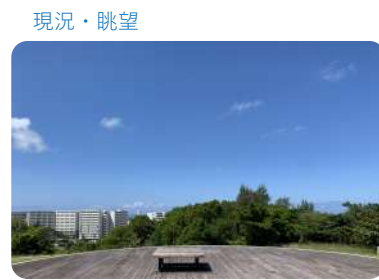
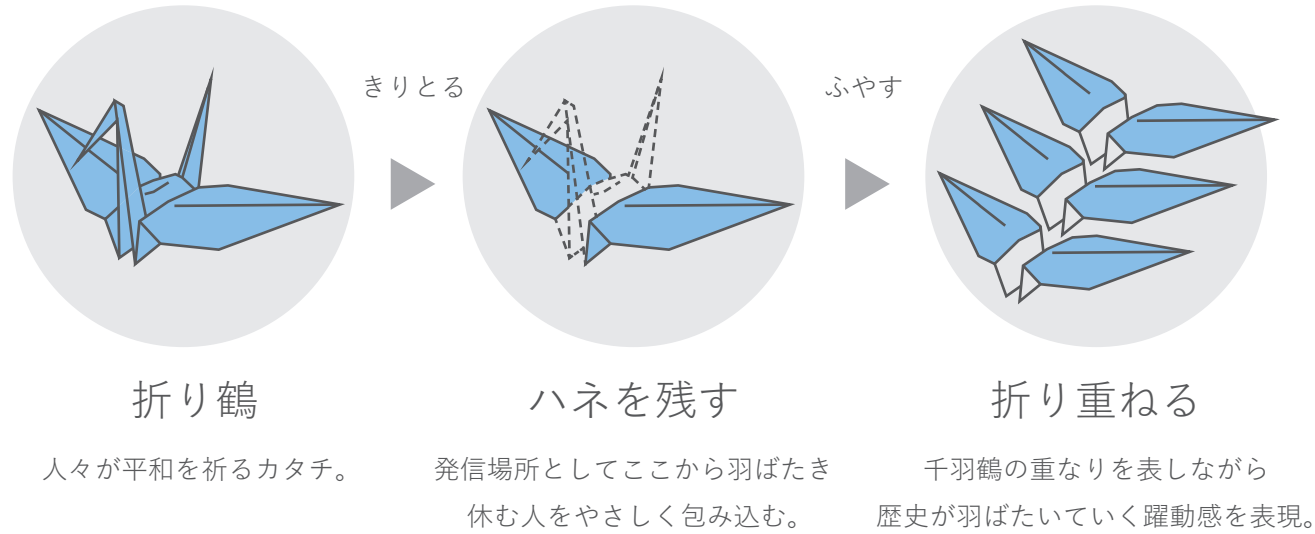
構造：鉄筋コンクリート造
仕上

[柱・梁・屋根] コンクリート打放し+フッ素樹脂光触媒塗装仕上

形状ダイアグラム



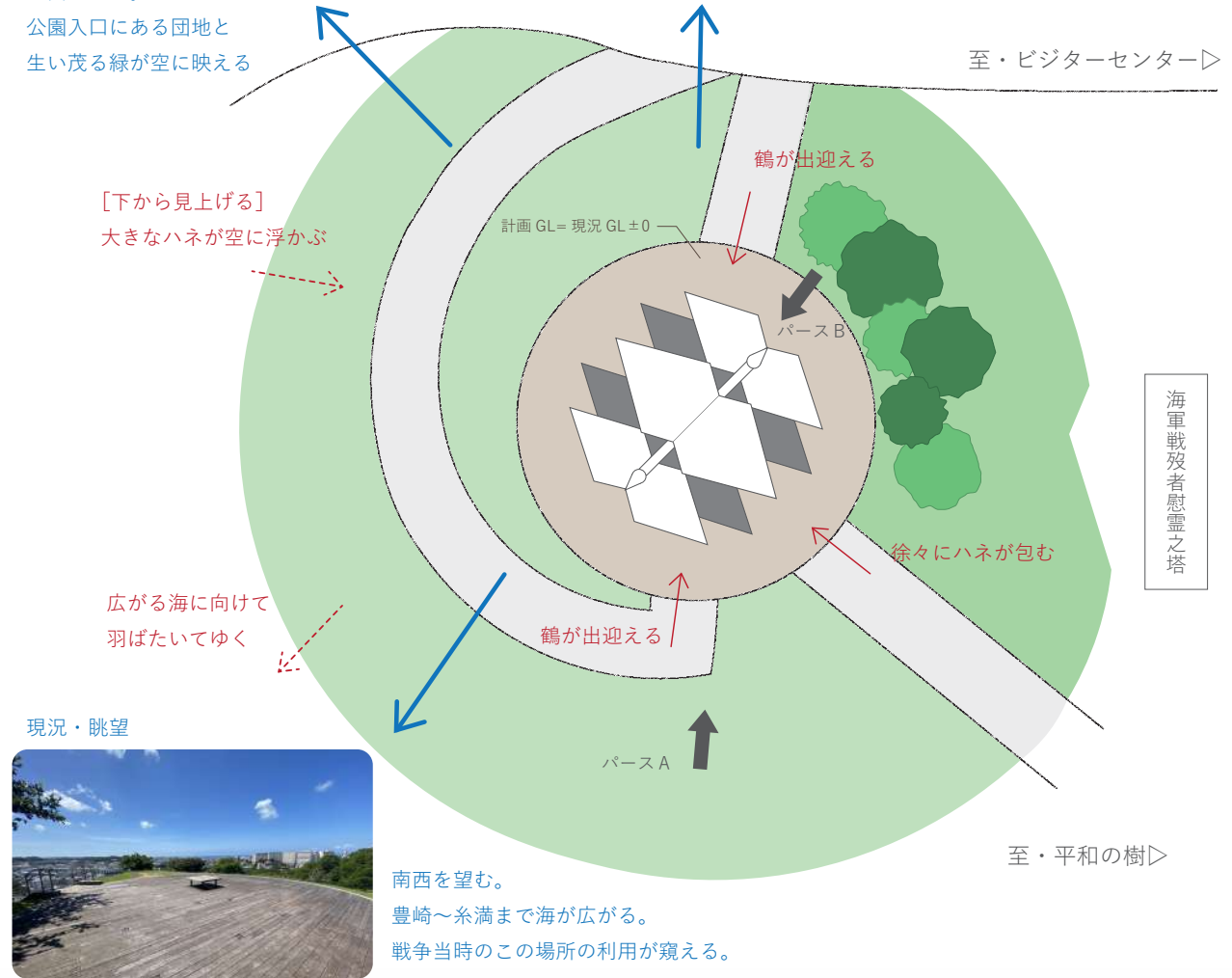
壕の千羽鶴



北西を望む。
公園入口にある団地と
生い茂る緑が空に映える



北を望む。
那覇・都心部を一望。
都会的でありながらも
草木や海が確保されている。



■ランドマークとしての活用

戦跡地としてのシンボルを新たにつくる。
下から上る際にハネが見えるよう、水平方向・鉛直方向ともに大きくハネを広げた。丘の曲線を保つことができるような配置とした。

■構造形式

耐久性・耐候性に優れたRC造を採用。
折り鶴のハネは、片持ち部材の配置を工夫することで表現し、それらの部材を柱2本で支持できる構造計画とした。

■眺望への配慮

鉛直部材を最小限に抑えることで、360度のパノラマを自由に愉しむことが出来る。
鶴の足元を取り囲むようにベンチを設けることで、計画地の眺望の良さを生かす配置計画となった。

■敷地の保全・景観への配慮

現況デッキ部分には、沖縄の風土に見合った舗装材を使用。琉球石灰岩が含まれている。
計画地が丘の上であるため、展望機能が高い。
現況の緩やかな丘の形状を残した上で、バリアフリー・利便性を考慮し、床レベルは段差のないフラットなプランとなっている。

■仕上材

フッ素樹脂光触媒塗装を採用。
光触媒塗料は、紫外線が当たると自動的に汚れを分解する機能を持ち、雨が降ると汚れを洗い流す。きれいな外観を保ち続け、維持管理が容易である。



[パースA]

青く澄んだ大空へ羽ばたく鶴が、訪れた人々を出迎える。
円形のベンチは、休む人をそっと包み込む。



[パースB]

展望台で集う人々。集うだけでなく、この場所から発信する（広げる）という意味を含め、360度全てに向けてベンチを設けた。

